

議長定例記者会見 会見録

日時：平成26年8月4日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

- 「みえ高校生県議会」の開催について

2 質疑項目

- 「みえ高校生県議会」の開催について
- 政務活動費について
- 三重県町村議会議長会について
- 「みえ高校生県議会」の開催について
- 三重県町村会について
- 政務活動費について
- 少子化対策、農政について

1 発表事項

○「みえ高校生県議会」の開催について

（議長）おはようございます。ただ今から、8月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。まず始めに、「みえ高校生県議会」の開催についてであります。具体的な内容につきましては、広聴広報会議座長であります奥野副議長から説明をさせていただきます。

（副議長）おはようございます。それでは、私の方から、「みえ高校生県議会」の開催につきまして、ご説明をいたします。お手元の資料をご覧ください。今月、8月20日、水曜日、午後1時から、本県議会議事堂の議場におきまして、「みえ高校生県議会」を開催いたします。

この取り組みは、広聴広報活動の一環として、高校生が議会活動を体験することで議会に対する関心を高めるとともに、高校生の意見を直接聴くことで議会での議論に反映していくことを目的に行います。

参加者は、県内の高等学校8校に通う生徒26名と、県議会議員16名、知事、教育長であり、当日は各校の生徒が議員役となって質問を行い、答弁は所管の委員長、議員の方が行うこととしています。また、2名の生徒には議長役もさせていただきます。

なお、「みえ高校生県議会」は公開とし、一般の方も傍聴できるほか、当日は手話通訳も行います。また、インターネットによる生中継や録画配信も行いま

すので、ぜひご覧いただければと思います。

最後になりますが、「みえ高校生県議会」は、本県議会では初めての試みとなります。ぜひ報道機関の皆様におかれましては、事前の情報発信や当日の取材につきまして、何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2 質疑応答

○「みえ高校生県議会」の開催について

(質問) まず、みえ高校生県議会で高校生の側からどういった質問が出るかという具体的な質問内容が分かっているかお伺いしたいのと、あと、今回、議員の方は皆さん、いわゆる当局側で答弁するということでよろしいのでしょうか。あと、各高校はどういった形でこの学校を選出されているのか。

(副議長) 質問は、各校8校からもう現在のところいただいております。今回初めての高校生県議会ですので、議員の各担当委員長が答弁に立たせていただきます。議員というのは質問する方ですけども、答弁というのは非常に少ないということで、議員の方も緊張感を持たれるかと違うかな。そういう意味で、さまざまな質問に対して、議員ができる限り答弁書に目をずっと落とすことなく、できるだけ高校生に相對しながら答弁をしていただきたいと考えています。3つ目の選び方なんですけれども、13校から申し込みをいただきました。その中から8校を選んだんですけれども、本当は13校すべてやりたかったんですけれども、時間的に考えてみますと、8校ぐらいが時間的に範囲内でできるかなというのと、選び方は8校を地域的なバランスなど、さまざまなことを考えながら、選ばれなかった5校に対しては本当に申し訳ないんですけども、今後そういう機会を作りながら、やっていきたいと考えております。

(質問) 質問事項は具体的にどういったものがあるのでしょうか。

(副議長) 質問事項は、事務局でよろしいか。

(事務局) 例えば、聾学校が参加させていただくんですけども、そこでは津波対策としての高所移転であるとか、北勢の方の高校であれば、三重県のスポーツ競技力の強化について、中勢地区であれば、魅力ある農業経営をめざすなど、そういうような質問が出ております。

(質問) すみません。もう1度お願いします。聾学校は。

(事務局) 津波対策としての高所移転について。学校の移転ですね。

(質問) その進捗を聞くということですか。それともそういう県の取り組んでいる対策の中身を聞くのでしょうか。それとも今後の対策の方向性を聞くのでしょうか。

(事務局) 中身については、実際の当日に明らかにしたいと思っております。事前にはご勘弁いただきたいと思っております。

(事務局) 各学校の質問項目については、どういうテーマについてというのは事前にいただいておりますので、それについては資料提供させていただきたいと思っております。

(質問) 各学校からそれぞれ何人ずつ参加される予定ですか。

(事務局) 各学校2名ないし4名ということで、合計26名の生徒さんにご参加いただきます。

○政務活動費について

(質問) 前回の会見と重複したら大変申し訳ないんですけども、兵庫の野々村氏の政務活動費の問題に関して、議長からコメントを改めていただきたいんですけども、お願いできますか。

(議長) 政務活動費の話ですね。私もマスコミ情報しかよく分かりませんが、三重県議会のとってきた今までの政務活動費からすればですね、ちょっと意外ということでございました。三重県議会におきましてはですね、条例、規程、あるいはガイドラインに基づいてですね、適正に執行運用されているということを考えておきまして、本県におきましてはどうもそのような事例はですね、ちょっと考えられないわけでございまして、ちょっと意外というふうに思っております。

(質問) 事件を受けて、何か改めて三重県議会でこういうことをやるっていうことはあるんですか。新しい形では。

(議長) これはもう私議長だけで決められる問題ではありませんし、また、議員の方々といろいろと相談をしながら、これから取り組んでいきたいと、こういうふうに思っております。

○三重県町村議会議長会について

(質問) 今日午後から町村議会議長会かと思うんですけど、どういった内容を議論されることになりそうなのでしょうか。

(議長) 私も来賓として出席をさせていただきますが、地方分権の問題が非常に今クローズアップされておるときでございますので、この件についてですね、我々地方の自治体議員として、どのようにこれから処していけばいいかということの議論を主に掲げさせていただきたいなど、このように思っております。ただ、私は来賓としての出席でございますので、そこはまた、地方議会のあるべき姿というものについて今日は大いに議論をされていくものというふうに思っておりますがね。ぜひ、それを期待したいと私も思っています。

ー第二県政記者クラブさんも含めて、発表事項もまとめて何かあればー

○「みえ高校生県議会」の開催について

(質問) 高校生県議会ですけど、どういう経緯で学校を選んだかとかはもう既に発表済みなので、役選前後で、だからいいんですけど、さっきちょっとあつたように、当局側でない議員が答えるというときに、例えばさっき津波の関係で校舎移転云々といったときに、予算措置的なものも生じるじゃないですか。それについてある程度当局と打ち合わせするにしても、そこである程度責任ある答弁というのはできるんですか。

(副議長) 一応、質問事項があり、答弁部分というのは当局側とある程度擦り合わせはする必要があろうかと思っております。ちぐはぐな答弁になると高校生も、信頼というのか、当局側と議員側が一体感はおかしいんですが、ちぐはぐはもっとおかしいですから、その辺は高校生の意見というか、質問を聞きながら当局と皆さんのための的確な答弁をするように、そのつもりでおります。

(質問) でも、知事と教育長が出席されるわけですよね。

(副議長) 知事は挨拶で、一応、議場からは出ます。

(質問) 議場にはじゃあ残らないですか。

(副議長) 議場に入って挨拶だけですね。

(質問) 教育長も。

(副議長) 教育長は残ります。

(質問) だとすれば、さっきの津波による校舎移転云々とかいうのは、関係常任委員長が答えて、なおかつ教育長が補足答弁することもあるんですか。

(副議長) ないです。

(質問) それはない。当局発言は一切ないんですか。

(副議長) 当局の発言はありません。

(質問) 初回だからいいと思いますけど。

(副議長) 初回ですから、充実感が味わえるか、どんなふうになるかはちょっと予測がつかないんですけども、だけど試みとしては非常に議会としても資質の向上という面において、かなりの成果というのが得られるのかな、高校生もそうなんですけど、議員としてもいろんな勉強ができるというのはいい機会であるのかなとは思っております。

○三重県町村会について

(質問) 町村議会議長会ですけど、都道府県議長はメンバーじゃないのでそこで発言とか意見交換するわけじゃないから、来賓挨拶なんでしょうけど、週末に町村会、町村長の会合がありますよね、三重県の。あれも議長が行かれるんですか。

(議長) 副議長に今のところお願いしようかなと、こういうことでございまして。

(質問) ということは、議長会は議長が行かれて、町村会、首長会の方は奥野副議長が行かれるということですか。

(議長) 私の都合がどうしても立て込んでおりましたものですから、そちらはお願いしたんです。

(質問) 分けたわけですね。

(議長) ということですか。

○政務活動費について

(質問) さっきの政務活動費なんですけど、兵庫県の元県議の件は置いておいて、さっき議長がおっしゃったように、ある程度三重県議会の場合はガイドラインを作ったと。元々、津の市民に訴えられて、平成10年前後に名古屋高裁までいったその件をきっかけに1円領収書まで付けるように、全国都道府県議会では初めてやったぐらい改革的だったんですけど、ただ、後のつながりが割とないですね。その辺で、今後、政務活動費をもっと厳密にやっていくとか、あるいは額を下げるとか、あるいは常に二人の県会議員は返上しているわけですから、もう政務活動費はやめようよと。今、現金給付して、そこから使った形で精算しているじゃないですか。そうじゃなくて、もう一步進むならば、使ったものに関して領収書を添えて、使用用途にしたがってですね、割り当てじゃなくて、後で戻してもらおうと。戻し金というやり方もあると思うんですけど、その辺に進む可能性はないですか。

(議長) この件についてはですね、最近、非常に社会的にもいろいろと問題があったわけですので、三重県議会といたしましては、現時点ではガイドラインに基づいてやっておるところでございますけれども、これからにつきましては、再度、議員の皆様とご相談のうえ、どうするかということについては、諮りながら考えていきたいなと、こういうふうに思っておるわけでありませう。いずれにしても、私がここで申し上げることではなくて、議会の皆様とご意見を諮りながら、というふうにさせていただきたいなと思っております。

○少子化対策、農政について

(質問) 議長に立候補されたときの話の中で、大事なのは未来の世代であると、次世代であると。その次世代のところのこれからの若い人たち向けの手当てをしていきたいと。中身はわからないですけど。それと農業に関しての農業振興であるということをおっしゃったんですけど、具体的に2つに関しては、次世代育成の部分と農業、多分、TPP絡みだと思んですけど、その辺について具体的に三重県議会として今後どのようにされるお考えというのはあるんですか。

(議長) 私も議長の所信表明の中で申し上げたわけですが、とにかく、今、私たちが一番大事なことは何だろうと思うときに、やっぱり次世代にどう引き継ぐかということであると思うわけでありませう。その中で、一つが少子化の問題であり、もう一つ、これはですね、次世代というようなことでなくて、

今現在ですね、もちろんこれも次世代に繋がっていくことですが、現在私は日本の農政がおかれた状況というのは、非常に大事な、これからの日本の農政、あるいは三重県農政を方向づけていく大事な時期にあるというふうに私は思っておるわけでありまして、したがって、今ここでどうだということを私から申し上げるといことは差し控えたいと思うんですが、この問題については既に事務局ともお話をし、これからどうやっていくということについては、これから十分議論をして、この問題については私の残された任期、わずかでございますけれども、なんとか三重県政としてですね、この問題について方向付け、あり様の方向付けくらいはというふうに思っておるわけでありまして。

(質問) いや、だから中身が見えないですけど。

(議長) まだちょっとそこら辺はですね、いろいろと議論の最中でございますので、今この場ではちょっと申し上げるわけにはいきません。

(質問) ただ、ご忠告申し上げておきますけど、ここでどうだということは差し控えたいという形でいけば、はっきり言えば、議長定例会見をやっている意味は全然ないので、その都度その都度、それを逃げて使われるというのはおやめください。少なくとも共催であるから、逆に言ったら第二県政記者クラブは共催しているかわかりませんが、とりあえず記者クラブと共催という形でやっているの、そこのところをそれやるんだとしたら、もう議長定例会見は今後意味がないです。その形で逃げるんだとしたら、説明責任は全然果たしてないことですから。その辺はそう思われませんか。

(議長) その件については、既にいろいろと話し合いも進めました。進めましたが、今この場でちょっと時期がまだ尚早ということで、ご了解いただきたいんです。

(質問) 時期尚早もくそもなにも、議長自身が立候補されたときに次世代云々と言って、具体的な施策は示されなかった。過去、議長というのは、立候補表明されたときに、それなりにプラン出されたり、例えば三谷議長でしたら議長マニフェストというのをい出して、それを実際にどこでやるかというところまで言われたわけですよ。各議長はみんなそういうプランを持って議長になられて、それを具体的に進められるじゃないですか。だとすれば、永田議長の場合に5月に就任されて、もはや約3カ月経つわけですね。その中に当然あなたが挙げられたものというのは、それなりにプラン化されているのが当たり前であって、もうあと8カ月かそこらじゃないですか、任期も。そういうことって

うのは、当然進捗聞くのは当たり前の話で、それについて答えられるというのは当然義務でしょ。そこがまだ今協議中で、例えば各派代表者で諮っていて、具体的なプランというのはもうすぐ出てくると、だと言うんだったらその時期を示してください。少なくともタイムスケジュールがなかったら、記事にもならないですよ。

(議長) おっしゃることよくわかりましたし、ご指摘も非常にありがたいわけでありまして、実はその件について議論も重ねました。したがって、代表者会議の問題もありますので、そのところにですね、ぜひ諮っていききたいというふうに思っております。

(質問) だいたいおおまかにいつ頃、例えば9月議会くらいにはなんとかみんな集めて、こういう話をしたいなとか。

(議長) 次の代表者会議にはですね、というふうに考えてもおります。

(質問) 次は8月にあるんでしたっけ。

(議長) 9月です。あんまり私がここでパシッと申し上げてしまいますと、なかなかその辺がですね、今ご指摘のあった件について駄目じゃというふうになっては困りますので、努力をすると、努力目標にしておいてください。

(質問) じゃあ、ちょっと視点を変えて、永田議長自身が次世代が大切であると、少子化対策を充実させなければいけないと。今、知事の側でかなり少子化対策、今年予算とか見ても、つけられていますよね。その足らずの部分とか、あるいはここはいいとか、その面についての評価とか含めて、その辺はどのように当局側の今の少子化対策案をどのように見ておられますか。

(議長) 私ですね、何度も申し上げてきたわけですが、少子化については本当に私のライフワークでございまして、今までずっと取り組んできた。しかし、今までこう言い放して中身が伴わないような少子化の動きでありました。やっとここにきてですね、国全体もそのような方向でもあります。そして、三重県政につきましては、鈴木知事もですね、本当にこの件についてはリーダーシップをとって、知事会の中でも本当に一生懸命にやっとなってくれると。これはもう本当に私、ありがたいと。やっとな国全体が、三重県全体がですね、やっとなこの件について動き出してきたなど、目に見えてきたなど。なぜかという、そこにはやっぱり財源的な予算等の問題もきちっと議論されるようにな

ってまいりましたし、やっとこれで私が長年提唱してきた少子化については動き出してるなという思いでいっぱいなんです。そういうことでありますので、じゃあ三重県議会としてということになろうと思うんですが、これについては、非常に世の中、少子化で動いてきましたものの、私としてはいつも申し上げているんですが、そういう動きの中で三重県版のというふうには実はいつも申し上げてきたわけですが、この三重県版がですね、ここにきてなかなか、じゃあどうかということになると、そういうふうな一つの目的を持っておりながら、三重県版ということになると、ちょっと今すぐということにはなってきません。したがって、これについてはもう少し時間も必要だと思いますし、やるからにはですね、それなりの成果をあげられる三重県版でなければいけないと思っておりますし、やっぱりなんでもかんでも言い出しっぺで言い出して、それで終わってしまうということには私はちょっと疑問を持っておりますので、やっぱり三重県版に一つ注力して、もう少し議論をしていく必要があると、こういうふうには思っています。

(副議長) 今、議長が答弁をさせていただいたんですけど、この少子化対策というのは、三重県版とか、どうのこうの言われるんですけど、なかなか具体的に云々という話は非常に難しいと思うんですよ。私も11年間の町長時代にも、この対策はずっと思いを持ってやってきたり、保育所のゼロ歳児保育を考えてみたり、いろんなことをやってきたけれど、思いと現実には非常にギャップがあるので、今、こういうふうな時代で、国全体で少子化というのは言われているんですけど、今回の勉強会というのは「公会計」をやるんですけど、もう一点を、議長とも話したんですけど、「少子化」というのをひとつの勉強会のテーマに、その辺までしかできないかも分からんけれども、ひとつの議会としてのきっかけとして、「少子化」の部分で次の勉強会はやってみたいなのというのを、議長とも話をしております。ともかく、三重県版というより三重県全体の中で少子化対策、特に一極集中というのか、都会に全部人口が集まっているので、なんとか企業も分散型、三重県のそういうのを作っていくと少子化対策にはならないという話もしておりますので、その辺の適当な先生による勉強会を開けたらどうかというのも、今、その辺までは話を先日議長としておりますので、できるだけ努力をしていきたいと思っております。

(質問) 三重県版を作るというのは別に悪くないと思います。要は議会がある程度やられるというときは、結局、議員提出条例を作られて、あるいは少子化対策に対して手当てしましょうと。予算措置はできないと思いますので、その辺の理念条例になる可能性が高いじゃないですか。今の正副それぞれのお話を勘案すると、副議長の場合はそこまで思われておるか分かりませんが、議長の

場合は、ある程度、そういう条例制定みたいなところまで、ちょっと頭におありになるのかなと思うんですけど、その辺はどうなんですか。

(議長) 条例というところまでは、ちょっと頭になかったんです。条例とまではね。

(質問) そういうことも含めて、とりあえず勉強会をやりたいと。

(議長) とりあえず勉強会をやっていこうということだけは、方向付けができたわけですが、中身については、なかなか難しゅうございましてね。副議長からも答えていただきましたけど、なかなか我々で話をしても、それなりの方向付けができてこないのが実態であります。いいアイデアがあったら教えていただきたい、逆に。

(質問) 有能な方が50人近く揃われてるんで、その中で協議されたらいいと思いますけど。

(議長) これはですね、まだまだ執行部だけの議論でございますので、もう少し議員の皆さんとも議論する場があればいいなというふうに思っておりますが、まだまだそこまで至っておりません。

(以 上) 11時02分 終了